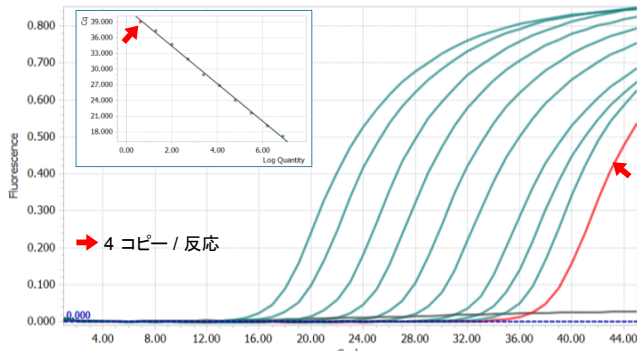


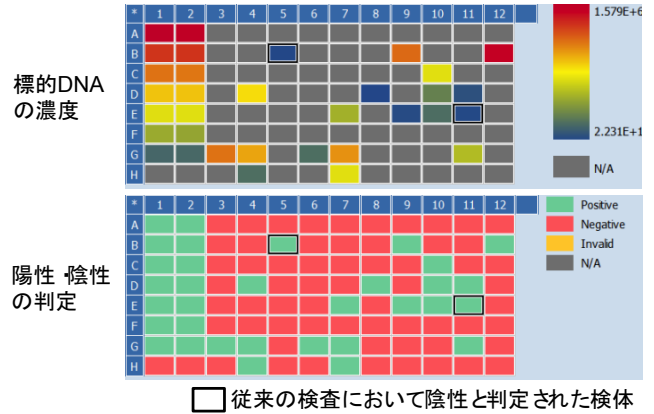
日本における進行性多巣性白質脳症(PML)のサーベイランスとその特徴の解析を通じたPML発症因子の解明および診断法の開発

研究開発分担者： 国立感染症研究所ウイルス第一部 西條政幸

① 低コピー域のJCウイルスDNAをより確実にかつ定量的に検出するためのPCR検査系の開発



② 過去にJCV検査を実施したPML疑い患者の脳脊髄液を用いた検査系の評価



③ PML疑い患者の脳脊髄液を対象とした新旧のリアルタイムPCR検査系のパフォーマンスの比較

		従来の検査法	
		陽性検体 ($n = 78$)	陰性検体 ($n = 447$)
開発した検査法	陽性	78	18*
	陰性	0	429

* 従来の検査法において定量限界以下の微弱なシグナルを認めた11検体を含む

④ 新たに開発した検査法において脳脊髄液中JCV陽性と判定されたPML疑い患者の内訳

		従来の検査法での結果	患者数
陽性	同じ時期の検体		42
	時期をおいて再検査		3
陰性	微量のシグナルあり		3
	シグナルなし		3

解 説

1. 進行性多巣性白質脳症(PML)の病原体であるJCウイルスのゲノムDNAをより高感度かつ定量的に検出するための検査系を開発した。
2. 従来のJCV-PCR検査を実施した脳脊髄液525検体(437名分)を対象として、本検査系の有用性を評価した。
3. 本検査系は、低コピー数のJCV-DNAを安定的に検出することが可能であり、より早い段階でのPMLの診断に貢献する。